

図1-16.今後の生活に対する考え

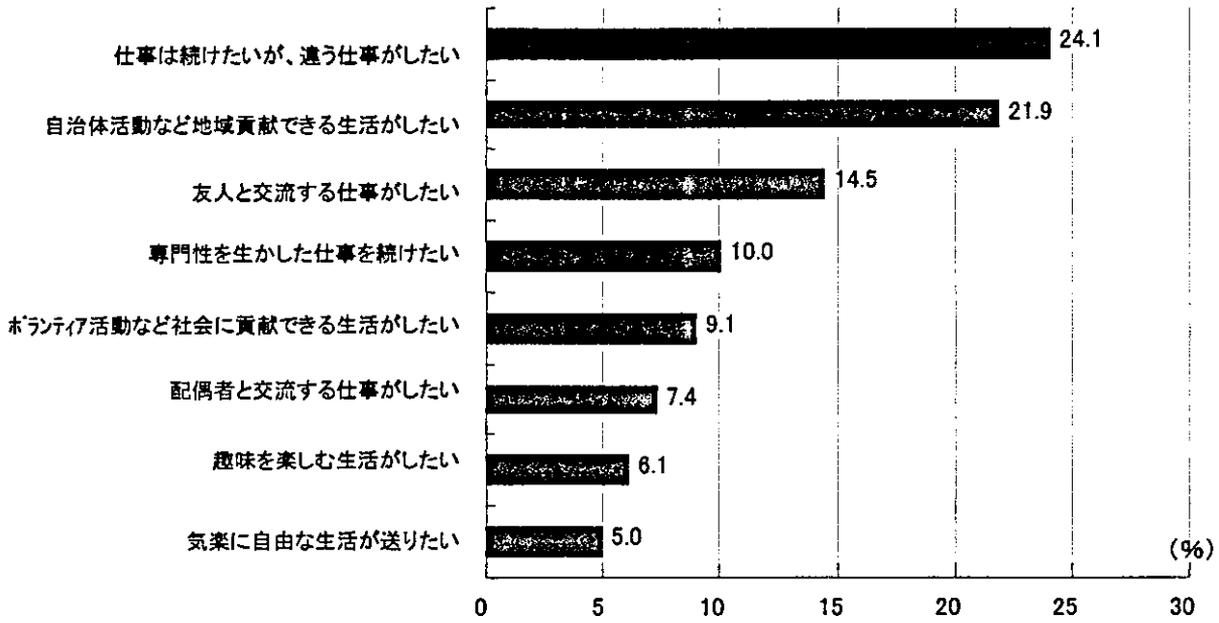


図1-17.社会活動参加量

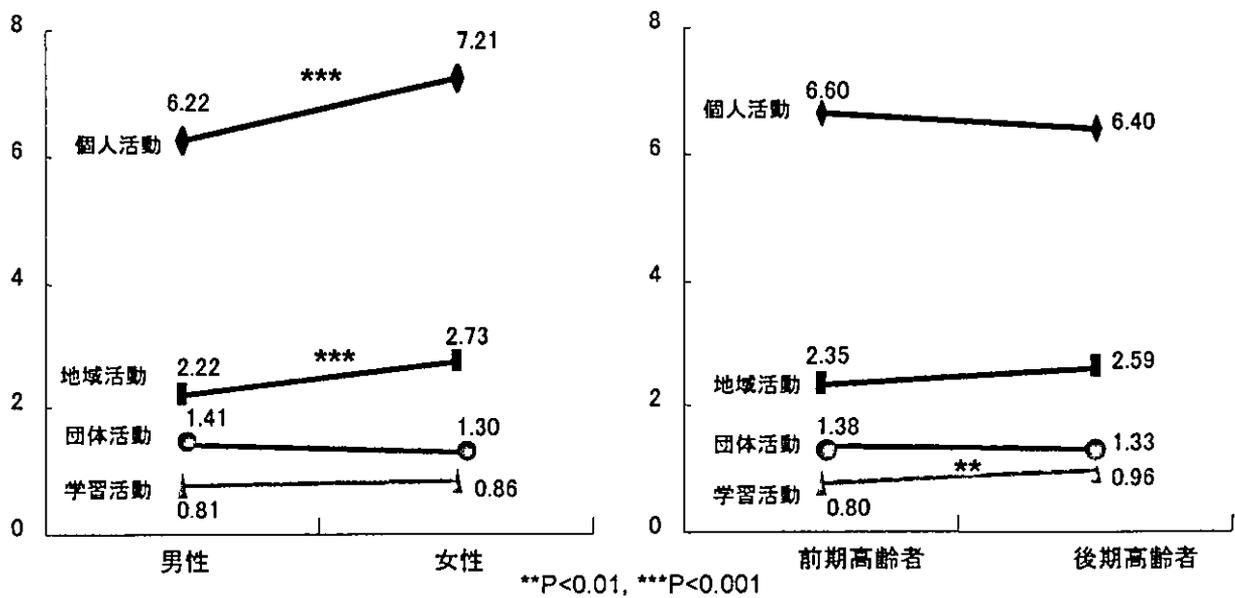


表1-10.個人活動量と各要因

		はい(あり)		いいえ(なし)		
		平均値	(SD)	平均値	(SD)	
促進要因	とくに重要だ と思う活動	近所付き合い	6.90	(2.67)	6.50	(2.89) ***
		奉仕活動	7.08	(2.71)	6.51	(2.87) *
		シルバー人材活動	5.98	(2.83)	6.62	(2.86) **
	きっかけ	個人の意志	6.98	(2.82)	6.37	(2.86) ***
		友人、仲間のすすめ	7.37	(2.70)	6.21	(2.86) ***
	要望	仕事続けたい	6.62	(2.70)	6.56	(2.87)
	地域貢献したい	7.46	(2.73)	6.51	(2.86) **	
妨害要因	個人面	体力の衰え	6.44	(2.83)	6.60	(2.87)
		身体的疾患	5.95	(2.93)	6.61	(2.85) ***
		興味に合った活動なし	6.13	(2.76)	6.65	(2.87) **
		意欲がわからない	6.09	(2.92)	6.66	(2.84) **
		誘ってくれる友人なし	5.76	(2.89)	6.73	(2.82) ***
		費用がかかる	6.19	(2.91)	6.65	(2.84) **
	環境面	移動手段が不便	6.27	(2.80)	6.61	(2.87)
		施設が利用しにくい	6.68	(2.87)	6.54	(2.86)
		情報が乏しい	6.51	(2.78)	6.57	(2.88)
	制度面	自分にあった活動がない	6.20	(2.79)	6.68	(2.87) **

\* P<0.05, \*\*P<0.01, \*\*\*P<0.001

表1-11.地域活動量と各要因

		はい(あり)		いいえ(なし)		
		平均値	SD	平均値	SD	
促進要因	とくに重要だ と思う活動	近所付き合い	2.30	(2.07)	2.41	(2.16)
		奉仕活動	2.57	(2.12)	2.38	(2.14)
		シルバー人材活動	1.89	(2.09)	2.44	(2.14) **
	きっかけ	個人の意志	2.75	(2.19)	2.23	(2.10) ***
		友人、仲間のすすめ	3.02	(2.20)	2.13	(2.06) ***
	要望	仕事続けたい	2.08	(1.71)	2.41	(2.16)
	地域貢献したい	4.00	(2.29)	2.30	(2.10) ***	
妨害要因	個人的側面	体力の衰え	2.54	(2.19)	2.35	(2.13)
		身体的疾患	2.17	(2.10)	2.41	(2.15)
		興味に合った活動なし	1.93	(1.88)	2.49	(2.18) ***
		意欲がわからない	2.16	(2.11)	2.44	(2.15) *
		誘ってくれる友人なし	1.90	(1.97)	2.50	(2.16) ***
		費用がかかる	2.21	(2.06)	2.44	(2.16)
	環境的側面	移動手段が不便	2.35	(2.08)	2.40	(2.15)
		施設が利用しにくい	2.38	(2.07)	2.39	(2.16)
		情報が乏しい	2.34	(1.99)	2.41	(2.18)
	制度的側面	自分にあった活動がない	2.15	(1.93)	2.47	(2.20) **

\* P<0.05, \*\*P<0.01, \*\*\*P<0.001

表1-12.学習活動量と各要因

		はい(あり)		いいえ(なし)			
		平均値	(SD)	平均値	(SD)		
促進要因	とくに重要だと思ふ活動	近所付合い	0.73	(0.91)	0.84	(0.96)	
		奉仕活動	0.99	(1.09)	0.81	(0.94)	*
		シルバー人材活動	1.13	(0.79)	0.79	(0.96)	***
	きっかけ	個人の意志	1.06	(1.08)	0.72	(0.87)	***
		友人、仲間のすすめ	0.94	(0.93)	0.77	(0.96)	***
	要望	仕事続けたい	0.80	(0.96)	0.83	(0.95)	
地域貢献したい		1.41	(1.15)	0.79	(0.93)	***	
妨害要因	個人的側面	体力の衰え	0.81	(0.99)	0.83	(0.94)	
		身体的疾患	0.80	(0.98)	0.83	(0.95)	
		興味に合った活動なし	0.80	(0.89)	0.83	(0.96)	
		意欲がわからない	0.74	(0.91)	0.84	(0.96)	
		誘ってくれる友人なし	0.66	(0.85)	0.86	(0.97)	***
	環境的側面	費用がかかる	0.80	(0.93)	0.83	(0.96)	
		移動手段が不便	0.90	(0.97)	0.81	(0.95)	
		施設が利用しにくい	0.87	(0.96)	0.82	(0.95)	
	制度的側面	情報が乏しい	0.88	(0.97)	0.81	(0.95)	
		自分にあつた活動がない	0.78	(0.90)	0.84	(0.97)	

\* P<0.05, \*\*P<0.01, \*\*\*P<0.001

表1-13.団体活動量と各要因

		はい(あり)		いいえ(なし)			
		平均値	SD	平均値	SD		
促進要因	とくに重要だと思ふ活動	近所付合い	1.37	(1.66)	1.37	(1.58)	
		奉仕活動	1.58	(1.68)	1.35	(1.58)	
		シルバー人材活動	1.23	(1.41)	1.39	(1.61)	
	きっかけ	個人の意志	1.66	(1.68)	1.24	(1.54)	***
		友人、仲間のすすめ	1.87	(1.84)	1.16	(1.42)	***
	要望	仕事続けたい	1.07	(1.18)	1.39	(1.61)	
地域貢献したい		2.37	(1.87)	1.31	(1.56)	***	
妨害要因	個人的側面	体力の衰え	1.39	(1.56)	1.36	(1.60)	
		身体的疾患	1.30	(1.58)	1.38	(1.60)	
		興味に合った活動なし	1.24	(1.43)	1.40	(1.63)	
		意欲がわからない	1.23	(1.43)	1.40	(1.63)	
		誘ってくれる友人なし	1.05	(1.48)	1.44	(1.61)	***
	環境的側面	費用がかかる	1.35	(1.63)	1.38	(1.59)	
		移動手段が不便	1.51	(1.72)	1.35	(1.57)	
		施設が利用しにくい	1.42	(1.58)	1.36	(1.60)	
	制度的側面	情報が乏しい	1.35	(1.60)	1.38	(1.59)	
		自分にあつた活動がない	1.27	(1.47)	1.40	(1.63)	

\* P<0.05, \*\*P<0.01, \*\*\*P<0.001

表1-14.社会活動量と各変数との相関係数

	個人活動	地域活動	学習活動	団体活動
年齢	-0.018	0.056 *	0.068 **	-0.026
性(男1、女2)	0.164 ***	0.112 ***	0.023	-0.032
家族数	0.020	0.055 *	-0.012	0.105 ***
配偶者(有1、無0)	0.030	0.022	0.011	-0.028
知的能動性	0.305 ***	0.150 ***	0.189 ***	0.168 ***
社会的役割	0.539 ***	0.340 ***	0.234 ***	0.304 ***

\* P<0.05, \*\*P<0.01, \*\*\*P<0.001

表1-15.社会活動量と各指標との相関係数

	個人活動	地域活動	学習活動	団体活動
生活満足感	0.283 ***	0.220 ***	0.151 ***	0.155 ***
健康度自己評価	0.267 ***	0.181 ***	0.162 ***	0.163 ***
幸福感	0.335 ***	0.271 ***	0.219 ***	0.224 ***
生活活動力	0.239 ***	0.079 **	0.102 ***	0.097 ***
健康満足感	0.259 ***	0.156 ***	0.138 ***	0.122 ***
QOL 人的サポート	0.340 ***	0.226 ***	0.138 ***	0.153 ***
経済ゆとり	0.292 ***	0.168 ***	0.186 ***	0.158 ***
精神的健康	0.242 ***	0.218 ***	0.188 ***	0.183 ***
精神的活力	0.405 ***	0.355 ***	0.263 ***	0.298 ***
孤独感	-0.479 ***	-0.356 ***	-0.213 ***	-0.269 ***

\*\*\*P<0.001

表2-1 社会参加項目の主成分分析による因子抽出

成分・分類	社会活動項目	回転後の成分行列*
I 個人活動	近所付き合い	0.489
	生活用品などの買い物	0.415
	デパートでの買い物	0.561
	近くの友人訪問	0.668
	近くの親戚訪問	0.694
	遠くの友人訪問	0.682
	遠くの親戚訪問	0.694
	お参りや礼拝	0.405
II 趣味・学習活動	国内旅行	0.490
	海外旅行	0.573
	スポーツや運動	0.551
	レクリエーション	0.585
	趣味の会	0.562
	カルチャーセンターなどの学習	0.572
	会社OB会	0.438
	同窓会	0.366
III 地域活動	地域行事	0.734
	町内会・自治会活動	0.863
	町内会・自治会役員	0.824
	老人会活動	0.480
	社会奉仕	0.507
IV 団体活動	特技などの伝え	0.441
	高齢者学級	0.538
	市民講座	0.593
	市民活動などの団体	0.564
	政治団体	0.641
	宗教団体	0.638
	各種行議会	0.481

\* バイマックス法

図 2-1. 追跡調査対象者

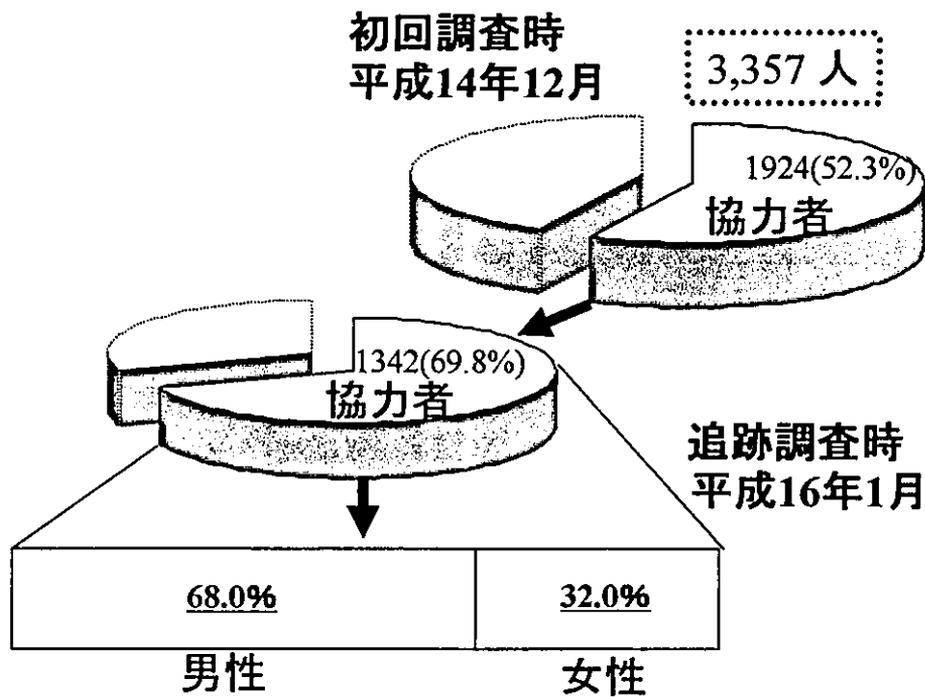


表2-2. 社会参加経年変化

分類	初回時		1年後			
	平均	SD	平均	SD		
全体	個人活動	14.21	3.98	13.64	4.07	*** ↓
	趣味・学習活動	7.94	4.48	7.80	4.48	
	地域活動	5.61	4.15	5.77	4.18	* ↑
	団体活動	3.82	3.76	4.11	3.89	** ↑
	合計	31.38	12.77	31.19	13.26	
男性	個人活動	13.66	3.92	13.15	4.01	*** ↓
	趣味・学習活動	7.82	4.35	7.70	4.36	
	地域活動	5.42	4.18	5.65	4.22	** ↑
	団体活動	3.85	3.83	4.15	3.93	** ↑
	合計	30.56	12.69	30.55	13.21	
女性	個人活動	15.39	3.84	14.70	4.00	
	趣味・学習活動	8.21	4.74	8.04	4.72	*** ↓
	地域活動	5.98	4.02	6.00	4.05	
	団体活動	3.79	3.63	4.03	3.80	
	合計	33.18	12.75	32.57	13.27	

表2-3. 個人活動と各指標との相関

	相関係数	偏相関係数1)
年齢	-0.018	
同居人数	0.034	
個人活動(初回)	0.692 ***	
生活満足感	0.197 ***	0.055
主観的幸福感	0.254 ***	0.093 **
孤独感	-0.227 ***	-0.072 *
健康度自己評価	0.202 ***	0.076 *
生活活動力	0.204 ***	0.046
健康満足感	0.169 ***	0.061 *
QOL 人的サポート	0.285 ***	0.079 *
経済的ゆとり満足感	0.174 ***	0.050
精神的健康	0.179 ***	0.080 **
精神的活力	0.273 ***	0.096 **
社会活動参加の意義	0.247 ***	0.039
社会活動参加のきっかけ	0.194 ***	0.114 ***
個人的側面	-0.118 ***	-0.068 *
妨害要因 環境的側面	-0.019	-0.020
制度面の側面	-0.051	-0.015

\*P<.05, \*\*P<.01, \*\*\*P<.001

1)性、年齢、同居人数、個人活動(初回)をコントロール

表2-4. 趣味・学習活動と各指標との相関

	相関係数	偏相関係数1)
年齢	-0.078 **	
同居人数	0.099 ***	
趣味や学習活動(初回)	0.822 ***	
生活満足感	0.257 ***	0.018
主観的幸福感	0.264 ***	0.046
孤独感	-0.155 ***	-0.041
健康度自己評価	0.213 ***	0.022
生活活動力	0.089 **	0.015
健康満足感	0.204 ***	0.051
QOL 人的サポート	0.216 ***	0.019
経済的ゆとり満足感	0.333 ***	0.058
精神的健康	0.254 ***	0.055
精神的活力	0.387 ***	0.033
社会活動参加の意義	0.307 ***	0.075 **
社会活動参加のきっかけ	0.374 ***	0.172 ***
個人的側面	-0.016	0.004
妨害要因 環境的側面	0.039	0.038
制度面の側面	0.048	0.057

\*P<.05, \*\*P<.01, \*\*\*P<.001

1)性、年齢、同居人数、趣味・学習活動(初回)をコントロール

表2-5. 地域活動と各指標との相関

	相関係数	偏相関係数1)
年齢	0.040	
同居人数	0.096 **	
地域活動(初回)	0.808 ***	
生活満足感	0.185 ***	0.007
主観的幸福感	0.225 ***	0.040
孤独感	-0.141 ***	-0.035
健康度自己評価	0.139 ***	0.053
生活活動力	0.073 **	0.054
健康満足感	0.126 ***	0.050
QOL 人的サポート	0.183 ***	0.028
経済的ゆとり満足感	0.129 ***	0.029
精神的健康	0.180 ***	0.040
精神的活力	0.237 ***	-0.009
社会活動参加の意義	0.313 ***	0.079 **
社会活動参加のきっかけ	0.347 ***	0.179 ***
個人的側面	-0.036	-0.035
妨害要因 環境的側面	0.034	0.042
制度面の側面	0.002	0.001

\*P<.05, \*\*P<.01, \*\*\*P<.001

1) 性、年齢、同居人数、個人活動(初回)をコントロール

表2-6. 団体活動と各指標との相関

	相関係数	偏相関係数1)
年齢	0.050	
同居人数	0.112 ***	
団体活動(初回)	0.763 ***	
生活満足感	0.136 ***	0.024
主観的幸福感	0.219 ***	0.081 **
孤独感	-0.148 ***	-0.076 *
健康度自己評価	0.171 ***	0.105 **
生活活動力	0.064 *	0.065 *
健康満足感	0.141 ***	0.094 **
QOL 人的サポート	0.148 ***	0.042
経済的ゆとり満足感	0.117 ***	0.045
精神的健康	0.197 ***	0.084 **
精神的活力	0.295 ***	0.138 ***
社会活動参加の意義	0.351 ***	0.100 **
社会参加のきっかけ	0.387 ***	0.228 ***
個人的側面	-0.019	-0.051
妨害要因 環境的側面	0.083 **	0.034
制度面の側面	0.042	0.038

\*P<.05, \*\*P<.01, \*\*\*P<.001

1) 性、年齢、同居人数、個人活動(初回)をコントロール

表3-3.社会参加を促進するための取り組み①

	地域全体の問題点の把握	柱、軸足	取組み例
政1	高齢者率の増加、後期高齢者の増加、要介護者増加、地域格差の拡大、(趣味・スポーツ・健康づくり)高齢化の進展、世帯変容、要介護者増加、(健康状態の把握、趣味学習、友人・知人との付き合い)	安心、いきいき、うるおい 外出、就労、仲間づくり支援	生涯学習の推進、就業機会の拡大促進、世代間交流活動 敬老乗券事業、シルバー人材センター、老人クラブ運営資金提供
政2			老人クラブ、シルバー人材センター、熱年大学への補助、公民館での講座開講、地域サロンの設置
政3			いきいきクラブへの友愛活動、社会奉仕活動への助成金支給、高齢者大学で地域貢献に関心を有するカリキュラムの設定、地域貢献人材育成、人材バンク開設、高齢者就職・起業支援講座
特1			地域サロン(委託運営)、ふらっとバス、老人クラブ活動助成、高齢者虐待対策
市1	高齢社会進展、交通不便、(外出意欲高まる、社会的孤立感)	社会的孤立感の解消	サークル、教養講座、ミニナイサービス(介護保険外)、老人クラブ助成事業
市2	高齢者人口増加、高齢者世帯の把握、隣接市町村の高齢者動向、地域別の高齢者人口、世帯の把握、高齢者の健康状態の把握(高齢者全員の実態調査を実施し、健康度や脳卒中、閉じこもり“認知症増加を予測”)	健康と生きがいづくり、自立化を目指す支援策づくり、快適な生活環境づくり、安心して暮らせる体制づくり	老人クラブ、健康づくり事業、在宅介護支援センター、シルバー人材センター就労支援
市3	高齢者家族形態別割合増加、要介護高齢者の増加	安心サービス、健やかサービス、いきいきサービス	シルバー人材センター、老人クラブ活動支援、高齢者教養大学の開催、就労的生きがいづくり活動の実施、元気高齢者支援事業、老人福祉センターの設置、老人集会所(室)の整備
市4	高齢者人口、高齢化率の増加、一人暮らし高齢者の増加、要介護高齢者の増加(高齢者全体の5/1の介護予防に関するニーズ調査で高齢者の生活習慣特徴を把握し、介護予防事業に役立てて行く)	就労支援、生涯学習活動の推進、地域福祉活動の促進、福祉文化づくりの推進	シルバー人材センターおよび起業化支援、高齢者大学や市民大学、老人クラブ、NPO、町内会自治会活動支援、障害者や高齢者施設の見学や勉強をおとした福祉教育の推進
市5	高齢化が進み、高齢化率が高い、(活動の場のソフト面の不足)	自分、地域、行政三位一体:市民と行政が手を携えて作る福祉、公助、共助、自助が歯車、障害者も高齢者もみんなが大切にされる町	福祉広場の設置(公民館設置)、コーディネート者の配置、テクレーションや体操、健康に関する講習、高齢者クラブ、老人大学、熱年体育大学(40-75歳)
市6	過疎化に伴い高齢化が進み、高齢者割合は27.06%と高い		生涯学習(市民大学)、世代間交流、人材バンク事業、シルバー人材センター、ケープルテレビ事業をおし社会参加を老人クラブ連合会、シルバー人材センター
市7			老人クラブ、市老連、生きがいと健康づくり事業への資金援助
市8			
市9			

表3-3-3.社会参加を促進するための取り組み②

	地域全体の問題点の把握	柱、軸足	取組み例
市10			高齢者の生きがい、健康づくり・社会参加として補助金提供、外出支援、シルバー人材センター、老人クラブ連合会補助金、委託金提供、老人福祉センター、老人憩の家、高齢者活動センターなど活動場の提供
市11			ほっとギヤリア開催事業、生きがい対応型サイバービス事業(趣味活動など)、さわふれさるるん社協が活動
町1		高齢者保健福祉計画に基づく(高齢者が安心して暮らせるよう、住み慣れた地域でさええあいながら、自立した生活が送れるよう支援する)	高齢者学級、寿大学、シルバー人材センター、老人クラブボランティア、ウオーキング祭、アクティビティサービス、脳活性化教室
町2			老人クラブ活動支援、シルバー人材センターへの助成、公共施設利用料減額
町3			シルバー人材センター就労促進への補助、老人クラブ連合会への生きがい対策事業の委託
町4	高齢者割合の増加		シルバー人材センター、老人福祉センター活動、福祉バス運行
町5		社会参加促進事業	福祉バス運行、ふれあい広場事業、生きがい活動援助
町6			福祉バス運行、生きがい活動通所支援事業の実施、シルバー人材センターの活用
町7			老人クラブ活動
村1	高齢者化率が高い、後期高齢者が増加の見込み、要介護者数も増加の見込み、保険料、療養諸費は他市町村より高い傾向、(健康寿命、障害期間“他市町村を比較”、健康状態の把握)	高齢者保健福祉計画に基づく(健康で生きがいあふれる長寿の村):健康増進、病气予防、介護予防、適切な介護	社会福祉協議会(老人クラブ連合会)が主体で行っている。老人クラブ活動、ふれあい事業(80歳以上、虚弱者を対象)、外出支援(送迎バス運行)、生きがい活動支援通所事業

表3-4.社会参加を困難にしている問題点(妨害要因)

	個人的要因	環境、社会的要因	制度面の要因
政1	価値観、意欲	地域の弱体化	
政2	身体機能低下、経済面、意欲気持ちの問題	地域の弱体化による孤立	
政3	外出意欲の低下		移動手段の不便さ、外出の受け皿不足
特1			活動の場の不足(高齢者への求人不足)
市1	ホワイトカラー男性のひきこもり	移動距離	
市2	閉じこもり、体力の低下	交通手段、地形の不便さ	広報が行き届いてない(見ない)、きつかけ作りが難しい、人材不足
市3	閉じこもり、生活習慣	地域(地理的要因)移動しにくい、住民転出が多く継続性がよくない	情報不足、システム化が難しい
市4	健康上の問題、経済的問題、時間不足、必要性を感じない、情報を読まない	交通手段、情報不足、人々のつながりがない	財源不足、人材不足、高齢者ニーズが把握にくい
市5	健康上の問題、閉じこもりや一人暮らし	移動手段、つながり	
市6	健康問題、社会参加に対する意識の問題	移動手段の不足、地域のつながりが薄い	個人問題には関わりにくい、行政だけの意識啓発は難しい、予算面、人材不足
市7	意欲、仲間意識、体力の問題	交通面	資金面
市8	健康、体力の不安、きつかけをつかめない、ひきこもりがち、関心が無い		
市9	経済面、役員の荷が重い		
市10	趣味の多様化、高齢者の意識の変化、老人クラブの高齢化により事業がマンネリ化している		
市11	高齢になり運転できない	移動手段の選択肢が限られる	男性の活動メニューが少ない
町1	孤独、気持ちの問題 経済状態	家族、地域とのつながりが薄い、コミュニティーの弱体化、家庭環境	要望が聞こえない、高齢者が果たす役割が不明確(ホワイトカラー)、雇用の場
町2	本人の意識	移動手段が少ない、活動場の距離、歩道整備	高齢者を取り巻く環境が異なる(地域性、社会資源)
町3	意識		組織(人材)や場所の不足、情報提供
町4	意欲がわかない、身体的疾患、きつかけがつかめない		
町5	本人の意識		
町6	目、耳、足腰の衰え、うつ病	交通の便が悪い	
町7			
村1	ひきこもり		財政面、専門職、人員不足

表3-5-5.社会参加システムに関する意見、要望①

市町村	ニーズ	要望・希望	他
政1		生涯学習の推進、就業機会の拡大促進、世代間交流活動促進	2007年問題における・行政サービスの早期再構築が必要
政2	ニーズの多様化を予測	柔軟な対応、積極的な取組み、啓発や情報提供、高齢者状況に応じた支援	高齢者の社会還元・家族間交流による次世代の自己将来像描きを図る
政3		若いうちからの老後のビジョンを持つことが肝要	高齢者施策の限界性
特1		高齢者活動支援団体の総合連結、ネットワーク作りを図り、高齢者の自主的な活動を促進する	高齢者の社会活動を通し、健康促進を図る・高齢者の就業を通し生きがい、雇用対策を図り、コミュニティ機能の再生・強化が期待できる
市1		モチベーション高めていくのが問題、男性ホワイトカラーの退職者の対応、シルバークリマータ登録市町村間の情報交流がない、地域実態が異なるので、同様な取組みは難しい	高齢者の社会活動は若年層からの教育が肝要、健康教育も重要
市2	実態調査を実施し、システム化を図り、ニーズを把握し、支援、サービスにリンク付ける	高齢者の経験を活かした活動の場の提供（国際進出を積極的に図る）	世代間交流、横の連携、高齢者のマンパワーを有効に利用、各種情報提供がほしい
市3	行政の横断的対応が軌道にのりつつあり、その中での課題である		
市4	情報不足に対し、情報を定期的に提供している、経済負担を軽減するために、100乗車制度テストを実施中	人とし尊重され、自分らしい暮らしを実現するために地域社会づくりをしていく。高齢者以外の核家族の社会進出支援制度が望ましい	閉じこもりの対応として民生員の訪問や老人クラブでの見守り、声かけが必要だろう。高齢者の方々がつながりを持つようになりたい
市5	障害を持つ高齢者に重点を置く	高齢者学習活動の推進システムの構築	シルバークリマータ会員になることで地域とのかかわりにつながるだろう
市6	健康づくりがメイン、閉じこもり・心理的にひきこもりの人の対応	地域全体での支え合いのシステムがあってほしい	地域のつながりは若年層からの意識が重要
市7		元気なうちに社会活動を活発にしていきたい	高齢者が生きがいを持つためには自己実現が必要 生涯学習を通して考えてほしい 世代間の交流をもっと図りたい

表3-5.社会参加システムに関する意見、要望②

市町村	ニーズ	要望・希望	他
市10		前期高齢者の加入によって、クラブの活性化を図り、多くの高齢者がさんかできるような事業を取り入れていくように検討していく。	
市11		身体機能が衰えないよう筋力アップなど介護予防に力点を置き、生活圏域に集える場所があり、多彩な活動の中から自分に適したメニューを選ぶなど生きがいを持つて活動の環境支援が重要となっている。	増加する高齢者の力を地域のまちづくりに活かすために環境作りを支援する
町1	地域の弱体化	地域における人間関係づくり。高齢者の生きがい対策や健康対策、介護予防等の川上での政策が重要。 高齢者の社会参加支援システム等の研究成果の情報提供がほしい	閉じこもりの対処として訪問が必要、高齢者の能力を活かす働きかけが必要、社会参加は子供の時代から促すことが必要であり、人生をトータルでみる視点の研究が望ましい。
町2		長期的に継続できる取組みとして、元気な高齢者以外の虚弱高齢者、閉じこもり高齢者にも参加を促しやすいための自主防災会の運営、援護者の登録、人との付合いの促進にもつながる	
町3		高齢社会人口構造変化に対応するための社会参加支援システムが必要	
町4		高齢人口の増加により社会参加は不可欠であるが、どう支援していくかは重要な課題	社会参加への支援を行政と地域が連携して行う必要がある
町5		参加が不活発な者への支援が課題	地域での支え合い、高齢者の手厚い支えを後退させないよう努力する。
町6			社会活動参加の活発な市町村の情報、取組みを知りたい。
町7			
村1	一人暮らし、高齢者夫婦のみの世帯が多い	高齢者の寝たきり予防、閉じこもりをなくし、地域みなんでささえあうことが重要	ふれあい事業を広げていきたい。

図3-1. 高齢者の社会活動促進システムイメージ図

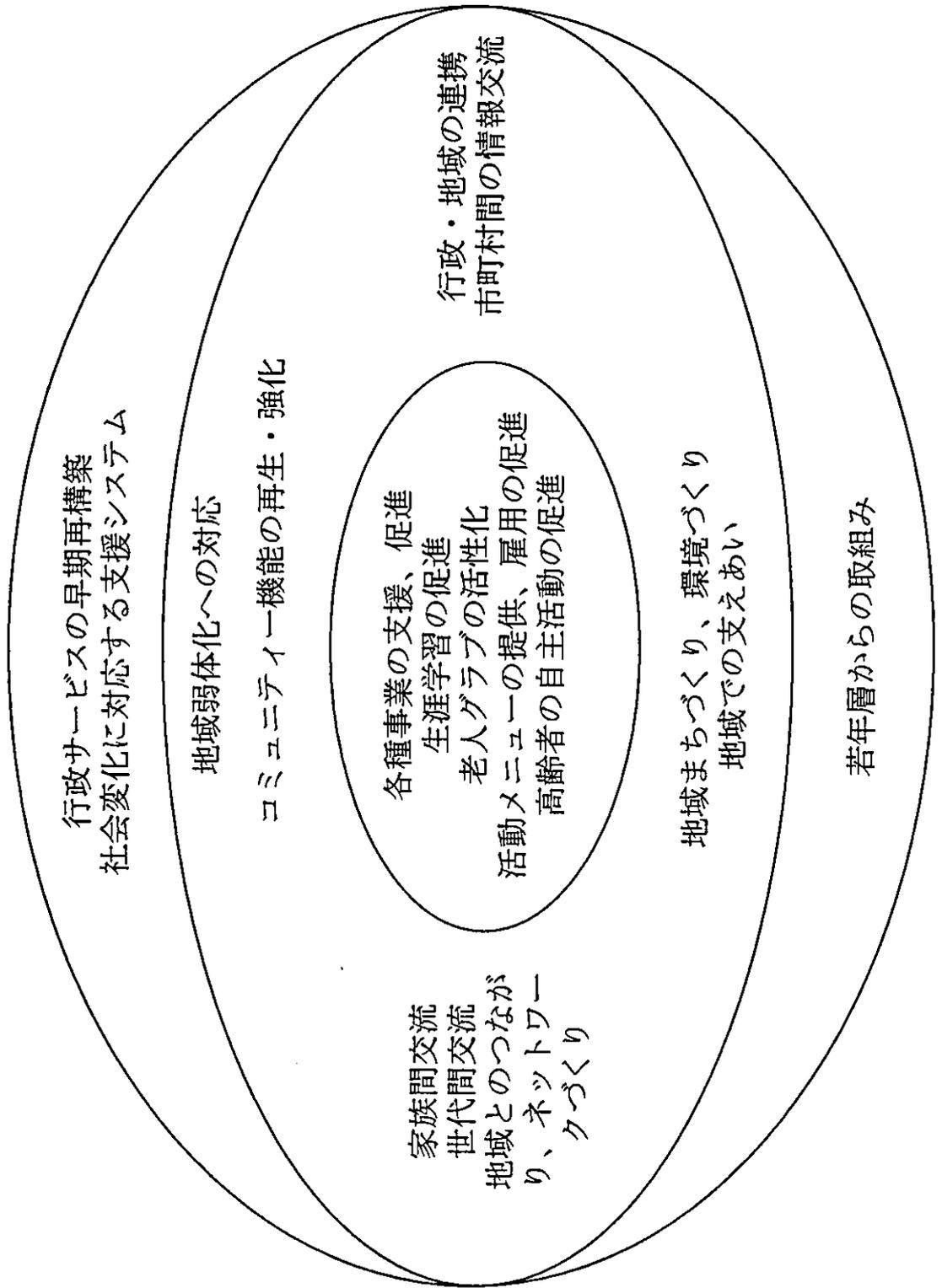


図 3-2

計画の目標像：チェイシーの心で創る健康福祉社会  
計画の指針：元気高齢者 9割を目指して

「宜野湾市高齢者保健福祉計画指針の模式図」

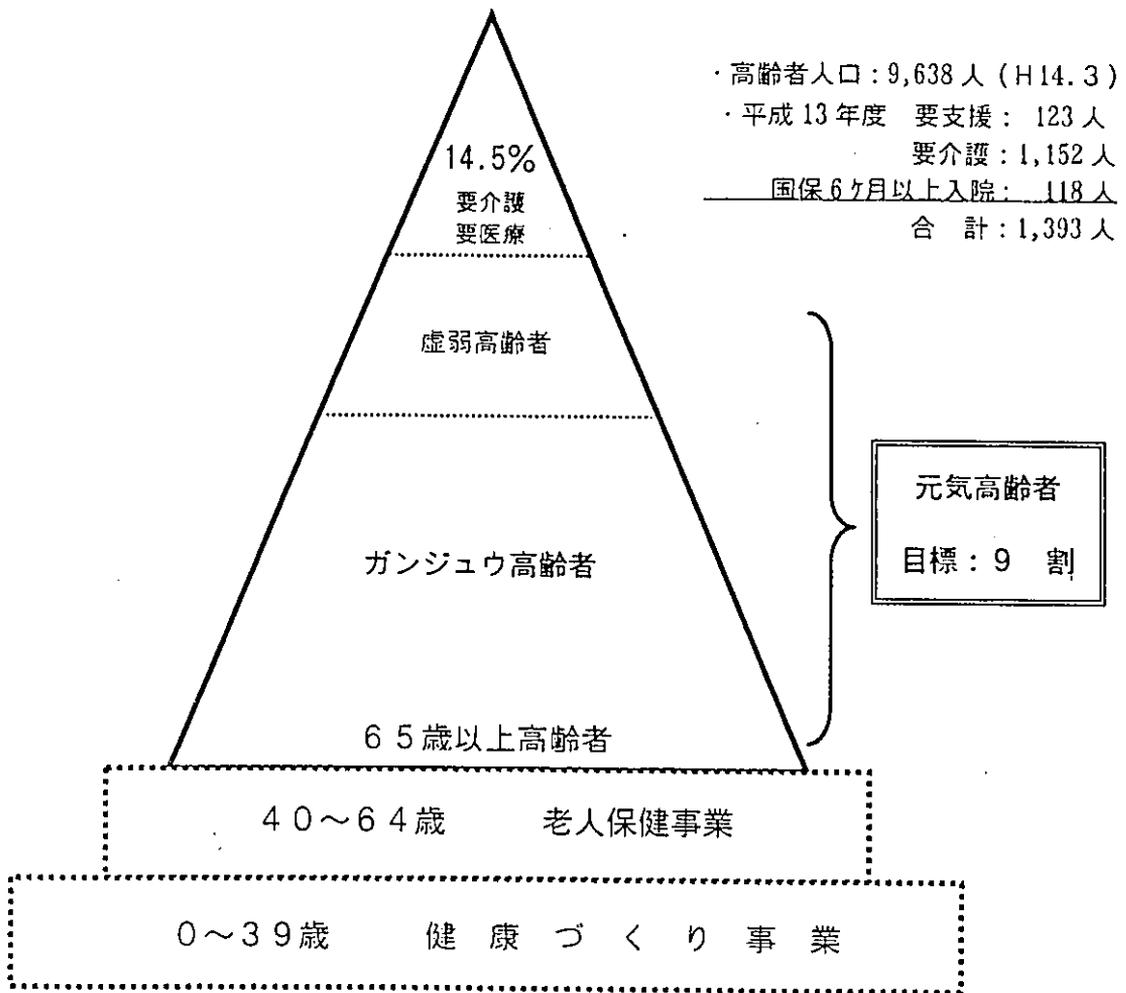


図 3-3

市2の高齢者保健福祉計画の施策体系

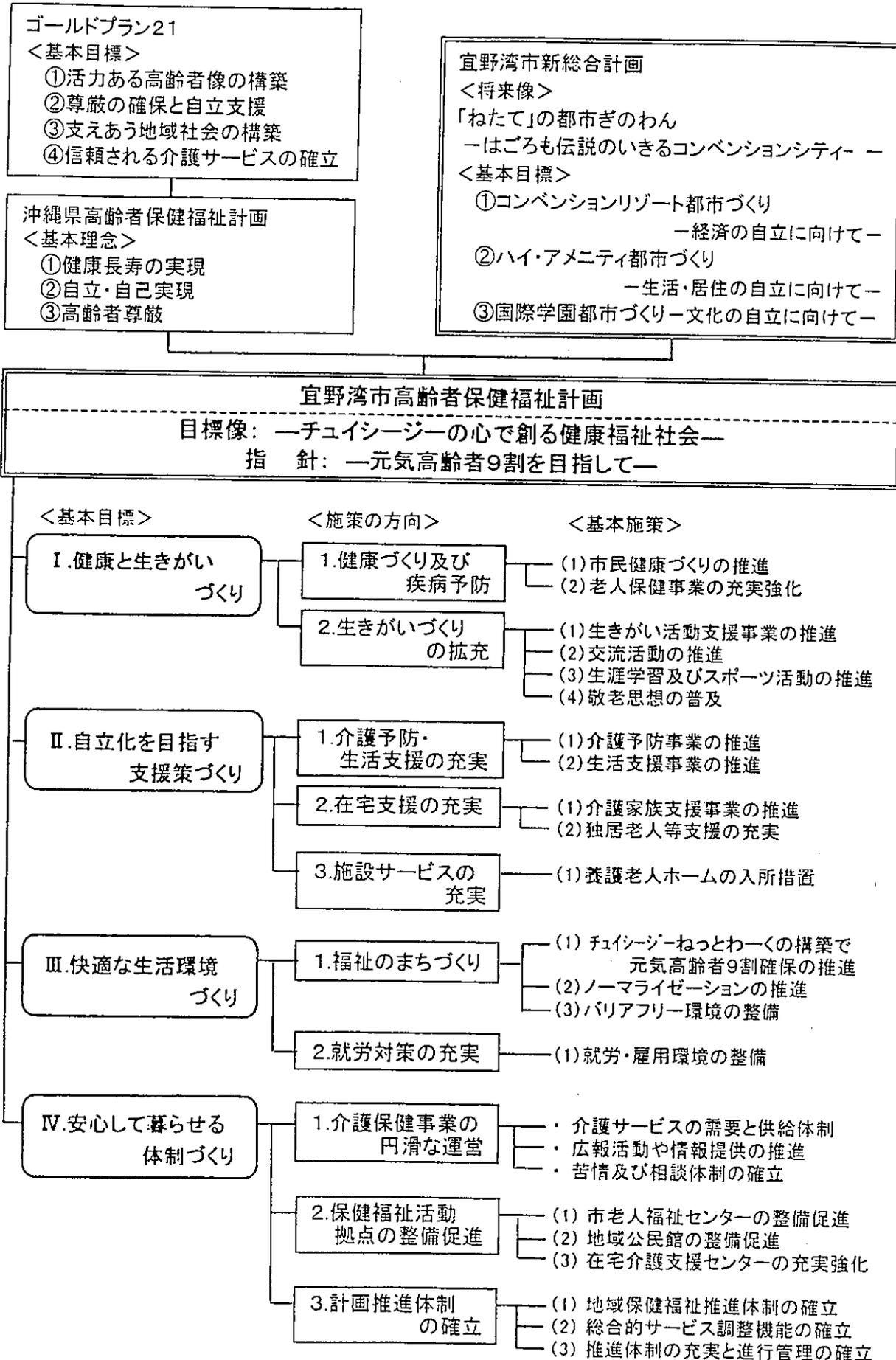
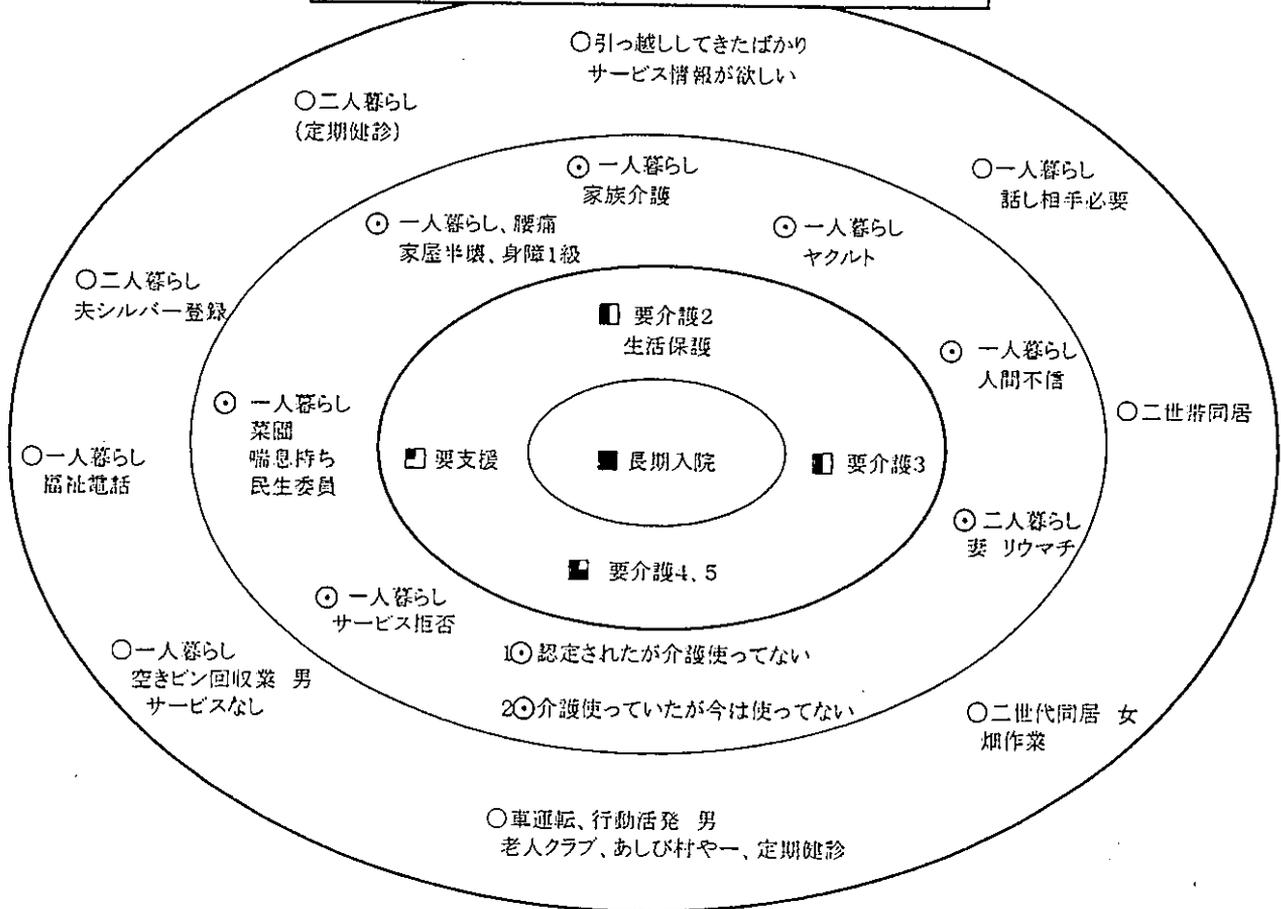


図 3-4

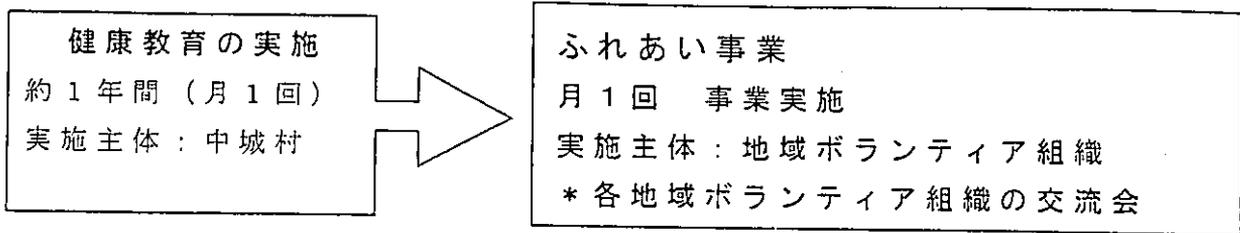
10,000人高齢者のイメージ図



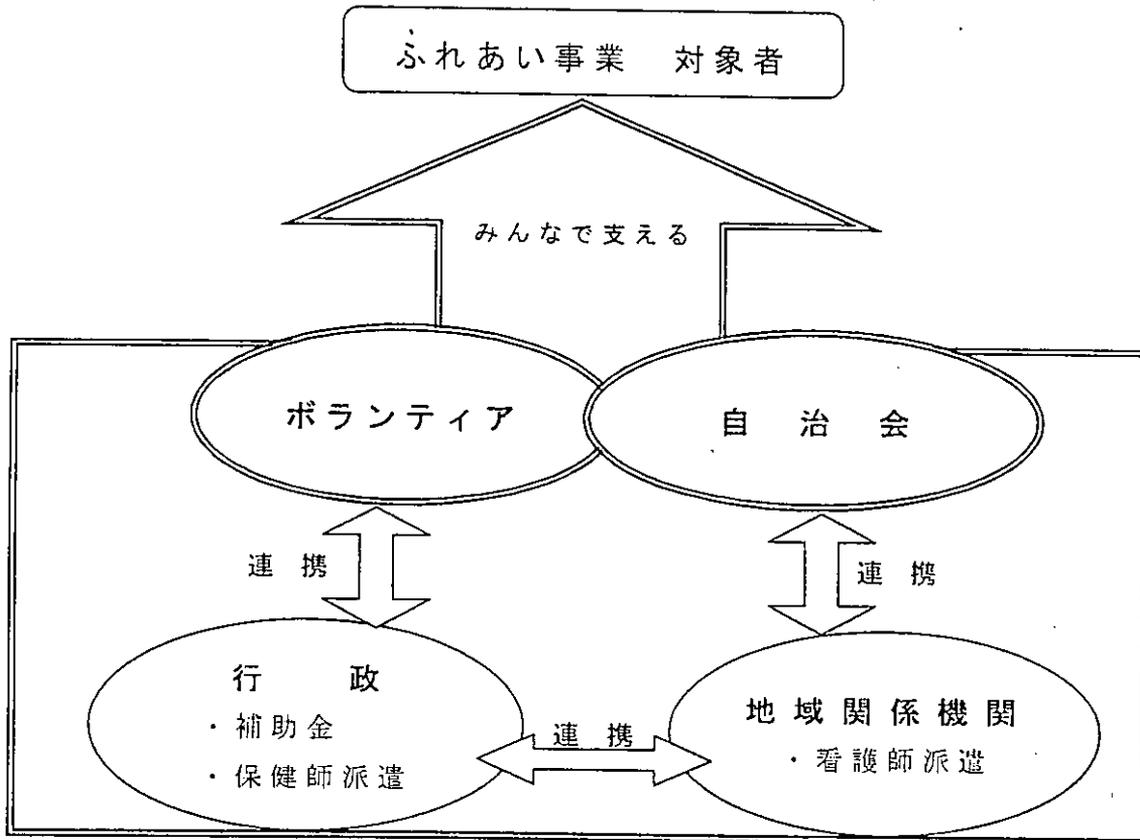
高齢者元気度の定義づけと目標

定義づけ	H15年(実績値)	H19年(目標値)
○元気		
◎虚弱		
1◎介護認定されたが使っていない	85.5%	90%
2◎介護使っていたが今は使っていない		
■要支援		
■要介護1~3	14.5%	10%
■要介護4, 5		
■長期入院		

図 3-5 〈健康教育事業からふれあい事業に移行する過程〉



〈ふれあい事業体系図〉



ふれあい事業に参加しての感想

新しい友人が増えた

参加することで生きがいを見つけた

ふれあい事業に参加することが楽しみ

外出のきっかけになった

健康を考えるきっかけになった

知識・技術の獲得につながった

「中城村における80歳以上の高齢者の身体的・精神的・社会的健康度評価に関する調査等事業報告書」より

## 高齢者の社会参加と QOL に関する縦断的検討

分担研究者 高田和子（独立行政法人国立健康・栄養研究所 主任研究員）

社会活動の参加状況の変化が高齢者の QOL に与える影響を検討するために、本研究班で実施した足立区内の高齢者を対象に初回と 1 年後の調査データを解析した。

全体で見ると、男性前期高齢期の健康満足感と精神的健康、女性前期高齢者の健康満足感が有意に低下していた。

活動状況別にみると、人・親戚・趣味仲間など気心の知れた人との交流、近隣での活動の場の確保などが大きく関連していた。一方で、精神的に negative な感情の指標となる精神的健康に関しては、社会活動の参加状況が変化することが負担となっていた。

### A 研究目的

高齢期における社会参加が自立度の維持や健康寿命の延伸に影響することが、しばしば指摘されてきた（芳賀、1988、安田、1989）が、様々な活動への参加が活動のレベルに影響するだけでなく、人との関わりや目的意識の獲得等の様々な面から、QOL の維持・向上にも大きく影響すると考えられる。昨年度は、断面的なデータをもとに社会参加の状況と QOL の関係について検討し、社会活動の内容と性別により参加の程度と QOL の関係が異なることを報告した。本年度は、昨年度の解析対象者について 1 年後の調査をしたデータに基づき、社会参加の程度の変化と QOL の変化の関係について検討した。

### B 研究方法

本研究班で足立区シルバー人材センターに登録している高齢者及び足立区内の 2 つの老人クラブの会員を対象に平成 14 年度調査（平成 14 年 12 月～平成 15 年 1 月）に初回調査を実施した。平成 14 年調査で回収された 1,924 の回答（回収率 52.3%）のうち、継続調査への協力の承諾が得られた 1,566 名に、平成 15 年度（平成 16 年 1 月）に 1 年後の

調査を実施した。2 回の回答が得られた者は 1,342 名（回収率 857%）であった。尚、本研究での解析は性・年齢が明確で 65 歳以上である 1,163 名を解析対象とした。QOL は、太田ら（2001）が作成した質問を用い、下位尺度 6 項目（生活活動力、健康満足感、人的サポート満足感、経済的ゆとり満足感、精神的健康、精神的活力）のそれぞれの得点で評価した。解析は男女別、年齢別（前期高齢者：65～74 歳、後期高齢者：75 歳以上）にわけて行った。各社会参加の参加状況は、「あまりしない」、「まったくしない」、「時々する」、「いつもする」の 4 つの選択肢により回答している。社会参加の項目のうち、近所づきあい（質問 9(1)）、生活用品や食料品の買い物(2)、デパートなどでの買い物(3)、近くの友人・友達の訪問(4)、近くの親戚の訪問(5)、遠くの友人・友達の訪問(6)、遠くの親戚の訪問(7)、国内旅行(8)、神社仏閣・教会へのお参り(10)、スポーツや運動(11)、レクリエーション活動(12)、地域の行事への参加(13)、町内会や自治会の活動(14)、町内会や自治会の役員(15)、趣味の会(17)、シルバー人材センター(23)については、「あまりしない」、「まったくしない」を活動なし、「ときどきしている」と「いつもしている」を活動ありとした。それ以外の活動については、「まったくしていない」のみを活動なしとし、その

他の3つの回答は活動ありとした。初回と1年後の活動状況から活動なし→活動なしを「無」、活動あり→活動なしを「停止」、活動なし→活動ありを「開始」、活動あり→活動ありを「継続」の4群にわけ、それぞれの活動別にQOLの下位尺度の変化を比較した。下位尺度は「生活活動力」、「健康満足感」、「人的サポート満足感」、「経済的ゆとり満足感」、「精神的健康」、「精神的活力」の6項目であり、各下位尺度が良好な場合が点数が高く、満点は「生活活動力」で5点、経済的ゆとり満足感が2点で、他の4項目は3点である。QOLの変化はすべてpaired-T検定により比較した。すべての解析はSPSS ver13.0Jでおこなった。

(倫理面への配慮)

研究班で得られたデータの解析に際し、ID番号と回答のみからなるデータベースを使用し、対象者の氏名、住所等の個人情報は一切扱わなかった。

### C 研究結果

全対象者のQOLの下位尺度の変化を性別、年齢別に表1に示した。男性の前期高齢者(65~74歳)では健康満足感と精神的健康が有意に低下し、女性の前期高齢者では健康満足感が有意に低下した。

表1 QOL下位尺度の変化

	男性				女性			
	65~74歳 (n=624)		75歳以上 (n=200)		65~74歳 (n=276)		75歳以上 (n=63)	
生活活動力	4.83 ± 0.47	4.73 ± 0.62	4.80 ± 0.55	4.70 ± 0.73	4.98 ± 0.17	4.71 ± 0.89	4.97 ± 0.18	4.59 ± 0.93
健康満足感	2.49 ± 0.84	2.48 ± 0.92	2.32 ± 0.99 **	2.35 ± 0.97	2.57 ± 0.82	2.28 ± 1.03	2.43 ± 0.89 *	2.21 ± 1.13
人的サポート満足感	2.76 ± 0.62	2.83 ± 0.48	2.73 ± 0.64	2.81 ± 0.52	2.86 ± 0.46	2.76 ± 0.51	2.84 ± 0.48	2.65 ± 0.65
経済的ゆとり満足感	0.99 ± 0.91	1.34 ± 0.84	0.97 ± 0.89	1.34 ± 0.82	1.05 ± 0.93	1.12 ± 0.89	1.12 ± 0.90	1.15 ± 0.91
精神的健康	1.60 ± 1.03	1.81 ± 1.10	1.48 ± 1.11 *	1.77 ± 1.10	1.45 ± 1.05	1.59 ± 1.27	1.46 ± 1.08	1.44 ± 1.21
精神的活力	2.05 ± 1.00	2.12 ± 0.91	2.06 ± 0.98	2.12 ± 0.91	2.06 ± 0.98	1.96 ± 1.17	2.01 ± 1.03	1.77 ± 1.25
	2.06 ± 0.98	2.11 ± 0.95						

上段:初回、下段:1年後 \* p<0.05, \*\* p<0.01:初回と1年後で有意な変化(paired-T)

男女に前期高齢者の各活動の変化とQOLの関係を表2~4に示した。表は1年間の活動の参加状況が無、停止、開始、継続の4つに分類した。QOLの下位尺度について、有意な変化のあった項目について改善は↑、低下は↓で示し、有意確率が0.05以下を矢印が1個、0.01以下を矢印2個で示した。有意な変化をしなかった場合は「-」で1群の人数が少なく検定できない群は「+」で示した。有意な違いの有無には人数が大きく影響しているため、1群が100人以上いる部分に注目した。男性の前期高齢者では全体では健康満足感が有意に低下したが、近くの友人の訪問、遠くの親戚の訪

問、スポーツ、趣味仲間との活動、ボランティア活動、会社のOB会の継続とデパートなどでの買い物をしていない群では、低下はみとめられなかった。人的サポート満足感では、地域行事への参加を開始した群で改善が認められた。経済的ゆとり満足感では、近所づきあい、地域行事への参加、自治会役員活動をそれぞれ開始した群で改善がみられた。精神的健康は全体では有意に低下したが、近所づきあい、遠くの友人の訪問、神社などのお参り、ボランティア活動を継続した群、デパートなどでの買い物、近くの友人の訪問、近くの親戚の訪問、遠くの親戚訪問、国内旅行、スポーツ、レクリ